

# ボート競技の全日本選手権大会に関する研究

— 開催回数の正当性について —

古城 庸夫\*

## 要 約

ボート競技の全日本選手権大会の開催回数については、長く間違いがあるのではないかと指摘があったが、これまでその開催回数の正誤については検証されてこなかった。既存記録の検証と新しい資料の発見により、ボート競技の全日本選手権大会の開催回数については訂正する必要があるといえるだろう。

ボートレース レガッタ 競漕 端艇 漕艇

## 1. はじめに

大正時代の中頃には他競技には日本漕艇協会のような団体は存在せず、明治45年 嘉納治五郎によって設立された大日本体育協会に所属しているのみであった。

ボート競技がこのように他競技に先駆けて日本漕艇協会を設立した理由については、日本が明治45年(1912)初めてストックホルムオリンピックに参加した選手団(団長嘉納治五郎 監督大森兵蔵 短距離三島弥彦 長距離金栗四三)のなかで三島弥彦は学習院時代にボート選手としても活躍していたし、金栗四三は東京高等師範学校時代に学内競漕や遠漕にも参加していた。

また当時ストックホルムに留学していたため手伝いとして参加した田島錦司は嘉納治五郎の後輩で東京大学の学内競漕で優勝するなどしたボート選手であった。

実にストックホルムオリンピックに参加した日本人の5名中3名が日本国内のボート競技経験者であり、彼らの口からオリンピック大会における

ボート競技の様子が国内のボート関係者に伝わったと考えられる。明治初期において隅田川で始まったボートレースの関係者は日本国内で洋式スポーツの先駆者として、オリンピック大会参加に関心を高めたと考えられる。しかしオリンピック大会で使用されていた競漕用ボートはスライディングシートが用いられたシェル艇であったのに対して、日本国内では座席の動かない固定席であるフィックス艇が使用されておりオリンピックに参加するには国内の競技レベルを早急に高め使用する艇をシェル艇に変換する必要があったと思われる。また当時大日本体育協会の方針であったと考えられる経費の掛からない陸上や水泳競技に重きを置くという方針ではボート競技の参加が何時になるか分からないという焦りと、国際大会にボート競技を参加させたいというボート競技の関係者の熱望が大正9年(1920)関東にある7団体(東京大学、早稲田大学、明治大学、一橋大学、東京工業大学、東京外語大学、東京高等師範学校)が集合し日本漕艇協会を設立したのではないかと考えられ、そのような壮大な思いから関東の関係団体のみで設立されたボート競技の統括団体に(日本漕艇協会)ボート競技のオリンピック大会に参加する代表を決定することが出来る名称を付けたのではないかと考えられる。

2013年11月15日受付

\* 江戸川大学 経営社会学科准教授 スポーツ近代史、  
コーチ学

しかし日本漕艇協会が設立されてから5年後の大正14年(1925)9月23日には関西にある6校(京都帝国大学,同志社大学,龍谷大学,大にかんとうに阪高等商業学校(現大阪市立大学),同志社高等商業学校(現同志社大学),彦根高等商業学校(現滋賀大学)によって関西漕艇協会が設立された。同じ競技を行う団体によって日本国内に二つの協会が作られたというこの驚くような事態は,当時の日本漕艇協会の設立時の状態が,真に日本のボート界を代表する統括団体ではなかったからではないかと考えられる。

仮に関東にある7校が将来的に日本のボート競技を行う団体を統括しようとして設立されたとしても,その様な設立の趣旨が全国のボート競技を行う団体に周知徹底がなされた上での設立ではなかったのではないと思われるからである。

したがって現在では,日本漕艇協会設立の大正9年(1920)に行われたボート競技の試合を全日本漕艇選手権大会の第一回と数え,今年で91回となる全日本漕艇選手権大会の開催回数に錯誤が生じたのではないかと考えられるのは,昭和3年(1928)に関西漕艇協会と日本漕艇協会が統合されたという記録が京都大学端艇部後援会誌に残されているからである。

そこで本研究は新たに発見された資料から,全日本漕艇選手権大会の正当な開催回数を明らかにすることを目的とする。

## 2. 既存記録の検証と新しい資料の発見

平成7年(1995)に日本漕艇協会から発行された漕艇75年の,全日本漕艇選手権大会の一覧表によれば第一回が行われたのは,大正9年からであると述べられているが,昭和3年に統合され新しく生まれた真の意味での日本漕艇協会の誕生以前の大会の記録がこの91回という開催回数に算入されているのではないかと考えられる。

またこの記録の引用は昭和32年(1957)に久保勘三郎と,宮田勝善により時事通信社より発行されたボート五十年(1)と昭和41年(1966)に時事通信社から宮田勝善によって発行されたボ

ート百年(2)だと考えられる。

しかし今回新たに発見された宮田勝善が昭和18年(1943)日本機動艇協会から発行した(櫂と櫓)(3)の全日本漕艇選手権大会の記録には,全日本漕艇選手権大会は昭和15年(1940)では13回とされていた。そのためさらに櫂と櫓に書かれている全日本漕艇選手権大会の内容を検証した。

この(櫂と櫓)によれば,第一回大会が行われたとされている大正9年(1920)に行われた競漕大会は第一回関東大学高専選手権と記されており,別称10大学レガッタなどと呼ばれていた。

また昭和3年(1928)から行われた大会の名称は第一回大会は全日本大学高専選手権であったが第二回大会と第三回大会は全日本大学高専選手権競漕で第4回大会は全日本決勝となっている。また第5回大会から第13回大会までは第6回の全日本大学高専選手権以外は全日本大学高専選手権競漕と記されている。この第一回大会から第13回大会まではいずれも名称に多少の違いはあるが,第4回大会に見られるように全日本決勝という表記からも全日本選手権大会であると思われる,何らかの理由で省略や脱字のまま表記された可能性があると思われるのは,出版された昭和18年(1943)という時代がまさに第二次世界大戦の混乱の最中であったからである。

## 3. 関西漕艇協会の設立について

大正9年(1920)に日本漕艇協会が設立されてから5年後の大正14年(1925)9月23日に関西漕艇協会が設立された理由は,昭和2年(1927)に京都帝国大学端艇部から発行された京都帝国大学短艇部史によれば,関西にも東京の日本漕艇協会にならって漕艇協会を造ろうという話に対して,日本漕艇協会の内意をただしたところ,ちょうど大正13年(1924)から明治神宮レースの運営を日本漕艇協会が委託され行っていた関係上,いつでもその組織を変更して関東漕艇協会とし,関西にも別の関西漕艇協会をができたなら,二つの団体で新たに日本漕艇協会を組織し,日本の漕艇

界を統一せるならば至極都合がよいとの意向であったと述べられていた。

また昭和3年(1928)7月に発行された京都大学端艇部講演会報第一号によれば、昭和2年(1927)東京の日本漕艇協会から関西漕艇協会に対して、日本の漕艇選手権大会を統一し、さらに漕艇協会の発展を図るため両協会を合併して組織を変更したいという相談を受けた。しかし関西地域では昭和元年(1926)に行われた舵付フォアでの第一回の競漕会に続いて、第二回の競漕会開催の直前であり、統一後の大会種目のエイト種目採用には関西地区の各校の事情もあり時間が足りないと判断し、先送りにしてもらったと書かれている。

これらのことから関西に誕生した日本漕艇協会が、広く日本中のボート競技を行っていた団体に呼びかけを行わずに設立したことに対して他団体への対応に苦慮していた様子がうかがえるのである。

#### 4. 両漕艇協会の統合について

さらに京都大学端艇部後援会報第一号によれば、関西の各ボート競技団体のエイト採用にめどが立ったため、先送りした両団体の合併問題を解決するため、東京大学漕艇部で明治25年(1892)4月に行われた第6回競漕大会法科選手、明治27年(1894)4月第7回競漕大会学士分科競漕、明治29年(1896)4月第10回競漕大会学士分科競漕で一位となるなど活躍し、後に京都帝国大学初代経済学部長、立命館大学第3代学長、関西漕艇協会初代会長、第3代日本漕艇協会会長を歴任した田島錦司が正式に交渉にあたった結果首尾よく合併の話は正式にまとまった。

この合併の交渉がスムーズに運んだ原因としては、初代漕艇協会の会長を務め後大日本体育協会会長、IOC委員を歴任した岸清一などと田島錦司が同時代に東京大学のボートレースに参加していたというような人的交流が背景にあったことも原因の一つではないかと考えられる。

その結果、京都大学端艇部後援会報第一号によ

れば、

「従来の両協会を解体し、全国的に統一した日本漕艇協会を設立することになり、昭和3年(1928)4月1日に新漕艇協会の関西支部、4月12日には関東支部の各創立総会を開き、4月29日天長節の佳節をとして、新協会は日本漕艇協会の名のもとに発会式を上げた。そして、従来の関西漕艇協会及び日本漕艇協会の事業並びにその一切を新漕艇協会に引き継ぐこととなった」と書かれている。

つまり昭和3年(1928)をもって、大正9年(1920)に関東の7団体で関東を中心にした日本漕艇協会が、大正14年(1925)9月23日に関西の6団体により設立された関西漕艇協会と合併することによって、初めて全国的な日本漕艇協会が誕生したと考えられる。昭和3年(1928)3月に発行された京都帝国大学新聞によれば

「日本漕艇協会は本部を東京におき、関東・関西の両支部をもって組織し、関西支部には新潟、長野、静岡を除きたる以西を統括する。関東・関西の両支部の予選を経て全日本選手権競漕大会を年々交代で関東、関西に於いて開催する。しかし、この包括団体は単に学校にのみならず、クラブ、銀行、会社、官庁等一切を包括する名実ともに具わるオール日本漕艇協会である。」という正式な日本でボート競技を行っている団体を統括しえる競技団体の誕生になったと書かれていた。

#### 5. 全日本選手権大会の開始時期について

平成7年(1995)に日本漕艇協会から発行された漕艇75年(4)の全日本選手権大会の記録によれば、大正9年(1920)を第一回とし、以降途切れることなく平成24年(2013)には91回を数えている。これらの引用は久保勘三郎、宮田勝善によって昭和32年(1957)発行に発行されたボート50年と、宮田勝善により昭和41年(1966)発行されたボート百年からの引用であると考えられるが、いずれも全日本選手権大会の初回の開催された年代を日本漕艇協会の設立された大正9年(1920)としていることがさらに混乱

を招いたと考えられる。しかしボート50年の記録によれば第一回大会を大正9年としながらも、昭和3年より兼関東エイトと記されていた事実を発見した。このことは少なくとも両者が昭和3年よりいいまでの大会と異なる大会が行われていたことを認識していたのではないかと考えられる。

また昭和18年(1943)に発行された(櫓と櫓)の中の記録を詳細に検討した結果、明らかに隔年で関東と関西で全日本選手権大会に向けて予選会を実施しそれらの代表で日本一の覇権を争っていたという事実が確認できた。しかもその記録には第一回全日本大学高専選手権競漕と書かれた記録があることが、改めて全日本選手権大会の行われた回数が誤表記された原因であると考えられる。それは昭和3年(1928)に関西と漕艇協会と旧

日本漕艇協会が合併する以前に行われていた大正9年(1920)から昭和2年(1927)にかけての大会名が、参加数が少なかったため大学のみに限らず高等専門学校なども参加を認めていたことに起因すると思われる。

つまり、関東と関西で全日本選手権に出場する代表を決める大会を行っていたが、新生日本漕艇協会誕生以前の試合内容を示す大学高専選手権競漕という名称を使用したと考えられ、そのことが余計に全日本選手権大会の初開催年と回数に錯誤を生じたと推測できるのである。

### 6. 戦時中の大会について

また第二次世界大戦に参加した日本にとっては

| 全日本選手権大会の開催回数 |     |      |    |     |                  |        |       |        |       |          |         |        |     |            |
|---------------|-----|------|----|-----|------------------|--------|-------|--------|-------|----------|---------|--------|-----|------------|
| 西暦            | 大正  | 権と櫓  | 宮田 | 権と櫓 | 大会名              | ボート50年 | ボート百年 | 新ボート百年 | 漕艇75年 | データ・ファイル | D-F 大会名 | 私案     | 備考他 | コース        |
| 昭和18年         |     |      |    |     |                  | 昭和32年  | 昭和41年 | 昭和51年  | 平成7   | 平成13年    |         |        |     |            |
|               |     |      |    |     |                  | 全日本回数  | 全日本回数 | 全日本回数  | 全日本回数 | 全日本回数    |         |        |     |            |
| 1920          | 9   |      |    |     | 前競漕 初シエル         | 1      | 1     | 1      | 1     | 1        | 1       | 関東大学高専 |     | 日本漕艇協会設立   |
| 1921          | 10  |      |    |     | 第2回関東大学高専選手権競漕   | 2      | 2     | 2      | 2     | 2        | 2       | 関東     |     | 10大学レガッタ俗称 |
| 1922          | 11  |      |    |     | 第3回関東大学高専選手権競漕   | 3      | 3     | 3      | 3     | 3        | 3       | 関東     |     | 11大学レガッタ俗称 |
| 1923          | 12  |      |    |     | 中止               | 中止     | 中止    | 中止     | 中止    | 中止       | 中止      |        |     | 関東大震災中止    |
| 1924          | 13  |      |    |     | 第4回関東大学高専選手権競漕   | 4      | 4     | 4      | 4     | 4        | 4       | 関東     |     |            |
| 1925          | 14  |      |    |     | 第5回関東大学高専選手権競漕   | 5      | 5     | 5      | 5     | 5        | 5       | 関東     |     | 関西漕艇協会設立   |
| 1926          | 15  |      |    |     | 第6回関東大学高専選手権競漕   | 6      | 6     | 6      | 6     | 6        | 6       | 関東     |     |            |
| 1927          | S2  |      |    |     | 第7回関東大学高専選手権競漕   | 7      | 7     | 7      | 7     | 7        | 7       | 関東     |     |            |
| 1928          | 3   | 1    |    |     | 第1回全日本大学高専選手権    | 8      | 8     | 8      | 8     | 8        | 8       | 全日本    | 1   | 協会合併       |
| 1929          | 4   | 2    |    |     | 第2回全日本大学高専選手権競漕  | 9      | 9     | 9      | 9     | 9        | 9       | 全日本    | 2   |            |
| 1930          | 5   | 3    |    |     | 第3回全日本大学高専選手権競漕  | 10     | 10    | 10     | 10    | 10       | 10      | 全日本    | 3   |            |
| 1931          | 6   | 4    |    |     | 第4回全日本決勝         | 11     | 11    | 11     | 11    | 11       | 11      | 全日本    | 4   |            |
| 1932          | 7   | 5    |    |     | 第5回全日本大学高専選手権競漕  | 12     | 12    | 12     | 12    | 12       | 12      | 全日本    | 5   |            |
| 1933          | 8   | 6    |    |     | 第6回全日本大学高専選手権    | 13     | 13    | 13     | 13    | 13       | 13      | 全日本    | 6   |            |
| 1934          | 9   | 7    |    |     | 第7回全日本大学高専選手権競漕  | 14     | 14    | 14     | 14    | 14       | 14      | 全日本    | 7   |            |
| 1935          | 10  | 8    |    |     | 第8回全日本大学高専選手権競漕  | 15     | 15    | 15     | 15    | 15       | 15      | 全日本    | 8   |            |
| 1936          | 11  | 9    |    |     | 第9回全日本大学高専選手権決勝  | 16     | 16    | 16     | 16    | 16       | 16      | 全日本    | 9   |            |
| 1937          | 12  | 10   |    |     | 第10回全日本大学高専選手権競漕 | 17     | 17    | 17     | 17    | 17       | 17      | 全日本    | 10  |            |
| 1938          | 13  | 11   |    |     | 第11回全日本大学高専選手権競漕 | 18     | 18    | 18     | 18    | 18       | 18      | 全日本    | 11  |            |
| 1939          | 14  | 12   |    |     | 第12回全日本大学高専選手権競漕 | 19     | 19    | 19     | 19    | 19       | 19      | 全日本    | 12  |            |
| 1940          | 15  | 13   |    |     | 第13回全日本大学高専選手権競漕 | 20     | 20    | 20     | 20    | 20       | 20      | 全日本    | 13  |            |
| 1941          | 16  | 中止   |    |     |                  | 21     | 21    | 21     | 21    | 21       | 21      | 全日本    |     | 中止         |
| 1942          | 17  | 日漕解消 |    |     | 第1回全国大学高専競漕      | 22     | 22    | 22     | 22    | 22       | 22      | 全日本    |     | 大日本学徳体育振興会 |
| 1943          | 18  | 日漕解消 |    |     | 第2回全国大学高専競漕      | 23     | 23    | 23     | 23    | 23       | 23      | 全日本    |     | 大日本学徳体育振興会 |
| 1944          | 19  |      |    |     | 中止               | 中止     | 中止    | 中止     | 中止    | 中止       | 中止      |        |     | 中止         |
| 1945          | 20  |      |    |     | 中止               | 中止     | 中止    | 中止     | 中止    | 中止       | 中止      |        |     | 中止         |
| 1946          | 21  |      |    |     |                  | 24     | 24    | 24     | 24    | 24       | 24      | 国体兼全日本 | 14  |            |
| 1947          | 22  |      |    |     |                  | 25     | 25    | 25     | 25    | 25       | 25      | 全日本    | 15  |            |
| 1948          | 23  |      |    |     |                  | 26     | 26    | 26     | 26    | 26       | 26      | 全日本    | 16  |            |
| 1949          | 24  |      |    |     |                  | 27     | 27    | 27     | 27    | 27       | 27      | 全日本    | 17  | 戸田会場一本化    |
| 1950          | 25  |      |    |     |                  | 28     | 28    | 28     | 28    | 28       | 28      | 全日本    | 18  |            |
| 1951          | 26  |      |    |     |                  | 29     | 29    | 29     | 29    | 29       | 29      | 全日本    | 19  |            |
| 1952          | 27  |      |    |     |                  | 30     | 30    | 30     | 30    | 30       | 30      | 全日本    | 20  |            |
| 1953          | 28  |      |    |     |                  | 31     | 31    | 31     | 31    | 31       | 31      | 全日本    | 21  |            |
| 1954          | 29  |      |    |     |                  | 32     | 32    | 32     | 32    | 32       | 32      | 全日本    | 22  |            |
| 中間 略          |     |      |    |     |                  |        |       |        |       |          |         |        |     |            |
| 2003          | H15 |      |    |     |                  | 81     | 81    | 81     | 81    | 81       | 81      | 全日本    | 71  |            |
| 2004          | 16  |      |    |     |                  | 82     | 82    | 82     | 82    | 82       | 82      | 全日本    | 72  |            |
| 2005          | 17  |      |    |     |                  | 83     | 83    | 83     | 83    | 83       | 83      | 全日本    | 73  |            |
| 2006          | 18  |      |    |     |                  | 84     | 84    | 84     | 84    | 84       | 84      | 全日本    | 74  |            |
| 2007          | 19  |      |    |     |                  | 85     | 85    | 85     | 85    | 85       | 85      | 全日本    | 75  |            |
| 2008          | 20  |      |    |     |                  | 86     | 86    | 86     | 86    | 86       | 86      | 全日本    | 76  |            |
| 2009          | 21  |      |    |     |                  | 87     | 87    | 87     | 87    | 87       | 87      | 全日本    | 77  |            |
| 2010          | 22  |      |    |     |                  | 88     | 88    | 88     | 88    | 88       | 88      | 全日本    | 78  |            |
| 2011          | 23  |      |    |     |                  | 89     | 89    | 89     | 89    | 89       | 89      | 全日本    | 79  |            |
| 2012          | 24  |      |    |     |                  | 90     | 90    | 90     | 90    | 90       | 90      | 全日本    | 80  |            |
| 2013          | 25  |      |    |     |                  | 91     | 91    | 91     | 91    | 91       | 91      | 全日本    | 81  | 他大日本学徳振2   |

全日本大学高専選手権競漕の表記に違いがあるのは省略か脱字だと思われる

図1 ボート競技の全日本選手権大会の開催回数に関して

この時期は混乱を生じており、全日本漕艇選手権大会が行われたかについては検証する必要がある。日本漕艇協会が平成13年に発行した最新の記録集(JARA DATA FILE)(5)は日本漕艇協会が平成7年に発行した漕艇75年より6年後のものであるため、多少の訂正は試みられていた。JARA DATA FILEの記録によれば、昭和16年(1941)の全日本選手権は戦局の悪化により関西の大会は中止、関東の大会のみ実施と記されているが全日本選手権大会は通算21回と数えられている。また昭和17年(1942)は全国大学高専選手権が行われ回数は22回とされていた。さらに昭和18年(1943)には全国大学高専選手権が行われ通算23回とされている。

しかしこれらの内容を検証すると昭和16年(1941)は関西大会は中止され関東のみが関東大学高専選手権を開催しているため、これをもって全日本選手権大会の開催数に算入するのはふさわしくないと考えられる。しかも関東大会と言いつつ同志社大学が参加している事実を見ても開催年に算入するにはふさわしくないとわざるを得ない。

さらに昭和17年(1942)には戦局の悪化により大日本体育協会と新生日本漕艇協会は発展解消され、以降2年間は文部省大日本学徒体育振興会主催の下で、解消した日本漕艇協会の関係者が開催を移管されて行われた大会を全国大学高専選手権として全日本選手権大会の回数に算入しているが、これらの大会は全日本選手権大会とは主催者も開催趣旨もあまりにも異なる内容のため開催回数に編入するのは不適切であるといわざるを得ない。

## 7. まとめ

以上のように既存資料の検証と新しい資料の発見により、ボート競技の全日本選手権大会の開催回数には訂正が必要であるといえる。

それはボート競技の全日本選手権大会の開催回数は、大正9年(1920)を第一回開催とせず、戦時中に行なわれた3大会を除外した回数に訂正

する必要がある。すなわち今日91回と数えられていたボートの全日本選手権大会の回数は、昭和3年(1928)以前の7大会と戦中に行われた3大会を除外した81回とすることが相応しいと考えられる。

しかしボート競技の関東、関西隔年で行われた全日本選手権大会が、昭和24年(1949)には戸田漕艇場での一元開催となった経緯などについては、今後の研究を待たなくてはならない。

### 《注》

- (1) 久保勘三郎・宮田勝善 『ボート五十年 時事通信社 1957 p351』
- (2) 宮田勝善 『ボート百年 時事通信社 1966 p667』
- (3) 宮田勝善 『権と櫓 日本機動艇協会 1943 p254』
- (4) 日本漕艇協会 『漕艇75年 1995 P104』
- (5) 日本漕艇協会 『JARA DATA FILE 2001 p18』

### 参考文献

- (1) 加藤橋夫訳 『体育の世界史』 (ベースボール・マガジン社 1976年)
- (2) 加藤橋夫・田中鎮雄訳 『近代イギリス体育史』 (ベースボール・マガジン社 1973年)
- (3) 松村高夫・山内文明訳 『英国スポーツの文化』 (同文館出版株式会社 1995年)
- (4) 今村嘉雄・石井トミ 『ライス・世界体育史』 (不昧堂書店 1968年)
- (5) 今村嘉雄 『西洋体育史』 (日本体育社 1953年)
- (6) 浅見俊雄・宮下充正・渡辺融編 『現代体育・スポーツ体系』 (株式会社 講談社 1984年)
- (7) 古城庸夫 『コーチ学入門』 (江戸川大学スポーツビジネス研究所 2005年)
- (8) 古城庸夫 『ボート競技の歴史年表』 (江戸川大学スポーツビジネス研究所 2000年)
- (9) 川崎晴朗 『築地外国人居留地』 (雄松堂出版 2002年)
- (10) 木村毅 『日本スポーツ文化史』 (ベースボール・マガジン社 1981年)
- (11) 菱谷武平 『長崎外国人居留地の研究』 (九州大学出版会 1988年)
- (12) 久保勘三郎 『東京帝国大学漕艇部五十年史』 (東京帝国大学漕艇部 1936年)
- (13) 宮田勝善 『改定新版 ボート百年』 (時事通信社 1976年)
- (14) 半藤一利編 『東京大学漕艇部百年史』 (東京大学淡青会 1992年)
- (15) 四神会 『一橋ボート百年の歩み』 (四神会 1983年)
- (16) 稲門艇友会 『漕艇部の百年 早稲田ボート文化史』 (100年史編纂委員会 2002年)
- (17) 東京外語艇友会 『外語ボート100年』 (東京外語艇

- 友会 2001年)
- (18) 三田漕艇倶楽部 『百年のあゆみ』 (慶応義塾体育会  
端艇部 1980年)
- (19) 東北大学漕艇部百周年史部会 『東北大学漕艇部百年  
史』 (東北大学漕艇部百周年記念事業会 2003年)
- (20) 京都大学体育会端艇部 『京都大学端艇部百年史』 (京  
都大学体育会端艇部 2000年)
- (21) 日本大学ボート部 『力漕百年』 (日本大学体育会ボ  
ート部 2005年)
- (22) 東京経済大学葵水会 『100年史』 (東京経済大学葵  
水会 2004年)
- (23) 蔵前漕艇倶楽部 『東京工業大学端艇部100年史』 (蔵  
前漕艇倶楽部 2001年)
- (24) 明治大学大学端艇部編 『明治大学体育会端艇部百年  
史』 (明治大学端艇部実行委員会 2004年)
- (25) 同志社艇友会 『同志社ローイング100年』 (同志社  
艇友会 1991年)